



## 2021年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年8月13日

上場会社名 株式会社ビーグリー 上場取引所 東  
 コード番号 3981 URL https://www.beagle.com  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 仁平  
 問合せ先責任者(役職名) 取締役管理部担当役員兼広報IR室長 (氏名) 櫻井 祐一 (TEL) 03-6706-4000  
 四半期報告書提出予定日 2021年8月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2021年12月期第2四半期の連結業績(2021年1月1日~2021年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期第2四半期	9,249	—	723	—	651	—	272	—
2020年12月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2021年12月期第2四半期 272百万円(—%) 2020年12月期第2四半期 一百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年12月期第2四半期	45.95	45.36
2020年12月期第2四半期	—	—

(注) 当社は2020年12月期連結会計年度末より連結財務諸表を作成しているため、2020年12月期第2四半期の数値及び対前年同四半期増減率は記載しておりません。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年12月期第2四半期	19,675	5,516	28.0
2020年12月期	19,741	5,224	26.5

(参考) 自己資本 2021年12月期第2四半期 5,516百万円 2020年12月期 5,224百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年12月期	—	0.00	—	—	—
2021年12月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2021年12月期の連結業績予想(2021年1月1日~2021年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,682	—	1,350	—	1,210	—	524	—	84.87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は2020年12月期連結会計年度末より連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P10「(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2021年12月期 2 Q	6,200,850株	2020年12月期	6,175,661株
② 期末自己株式数	2021年12月期 2 Q	243,228株	2020年12月期	246,723株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2021年12月期 2 Q	5,936,314株	2020年12月期 2 Q	5,904,921株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	10
(追加情報)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

なお、当社グループは、前連結会計年度末より連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期連結累計期間との比較分析は行っておりません。

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、4月より新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のワクチン接種が開始される等、感染拡大防止対策が行われる中で、持ち直しが続いているものの、先行きは依然として不透明な状況にあります。

そのような状況下、コミックを中心とする電子書籍市場は、ユーザーの拡大及びユーザー平均購入量の増加が続いており、今後も電子書籍及び電子コミック市場の拡大が続くことが予想されております。また、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で巣ごもり消費も促されており、更なるユーザーの増加、定着に寄与することが想定されております。(出典：インプレス総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書2020」)

しかしながら、電子書籍のビジネスモデルの多様化や成熟によって電子書籍市場が徐々に飽和していくことも予想されます。

また、市場への海賊版漫画サイトによる被害は拡大しておりますが、当社グループへの影響は軽微であると認識しております。今後も注意深く情報収集を継続するとともに、関連業界団体と連携のうえ、しかるべき対応を取ってまいります。

このような市場環境の中で、当社グループは「まんが王国」のブランド構築や規模拡大に注力するとともに連載作品や先行配信タイトル等による品揃え及びヒット作品の創出に向けた編集機能の強化を進め、コンテンツ育成に努めました。また、ぶんか社グループとのシナジー最大化のため、引き続き連携を深めております。

なお、当社グループでは昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大の情勢に鑑み、お取引先の皆様、従業員並びに関係者の皆様の安全確保と感染予防・拡大防止に向けた対応を進めるとともに、事業成長との両立に努めております。

このような経営環境において、「まんが王国」は第1四半期に引き続き、過去最高売上を記録しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は9,249,577千円、営業利益は723,810千円、経常利益は651,094千円、親会社株主に帰属する四半期純利益は272,791千円となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### (プラットフォームセグメント)

プラットフォームセグメントの主力サービスであるコミック配信サービス「まんが王国」においては、ユーザーの訪問・定着・課金の流れを促し、課金者数と顧客単価を上げるべく、お得感を訴求するキャンペーンやブランディング活動に注力しました。「まんが王国」サイト内で展開しているポイント購入と消費の両方であわせて毎日最大50%還元されるポイントプログラムの常時実施だけでなく、2021年4月には15周年を迎え、様々な記念キャンペーンを実施する等、お得感を訴求や幅広いユーザー層獲得のための販売促進活動を積極的に行いました。また、TVCMやTV番組とのタイアップ企画等、ユーザーの興味・関心を促進し、サイトへの流入を促す幅広い広告宣伝活動も積極的に実施しております。このように「まんが王国」は、お得感No.1(2020年10月から11月に実施された第三者調査機関による電子コミックサービスに関する調査で最もお得に感じるサービス第1位を獲得。)のコミック配信サービスとしてサイト内外で様々な企画を推進いたしました。さらに2021年6月には、日本テレビ放送網株式会社にて放映された漫画家発掘ドキュメントバラエティー「THE TOKIWA」のオーディション合格者と原作者が共同で制作した作品「恋の六道、愛の辻」や、テレビ朝日系「まんが未知」の番組内で制作された作品を「まんが王国」で配信する等、単なるコンテンツの拡充だけでなく作家デビュー支援やコンテンツの差別化を推進しております。

これらの取り組みにより、2021年5月に累計ダウンロード数が15億冊を突破、同年6月に会員登録数が500万人を突破する等、継続的に成長しております。

小説投稿サービス「ノベルパ」においては、株式会社竹書房での書籍化確約に加え、「まんが王国」及びぶんか社での電子コミック化等を想定した「恋愛小説コンテスト」を2021年4月に株式会社パブリッシングリンクと共同で開催いたしました。このように投稿作家から商業作家へのデビューを実現するプログラムを定期的に設け、サービスの差別化と作家デビュー支援を推進しております。さらに、同月にはオリジナルレーベル「ノベルパノベルズ」の公式グッズを通販サイト「FUNDIY STORE」にて販売開始し、5月には株式会社マッグガーデンと協業で、人気投稿小説「妖刀使いがチートスキルをもって異世界放浪～生まれ持ったチートは最強！！～」のコミカライズを「まんが王国」にて配信開始する等、サービス間のシナジー促進にも努めております。

IPプロデュースにおいては、大人気アニメ「無職転生～異世界行ったら本気だす～」のスマートフォンゲーム「無職転生～ゲームになっても本気だす～」を2021年3月に配信開始し、その後もアプリ内イベントの実施や新機能の実装等のゲーム内コンテンツの拡充を進めるとともに、「まんが王国」とのコラボ企画実施や「FUNDIY STORE」でのグッズ販売を開始する等、他サービスとのシナジー創出にも取り組みました。

これらの結果、当セグメントの売上高は6,042,222千円、営業損失は42,855千円となりました。

#### (コンテンツセグメント)

コンテンツセグメントにおいては、大型連休における各電子書店向けへの大規模施策が効果的だったことに加え、4月に創刊された女性向け漫画ジャンルの新レーベル「&.Emo comics」作品が幸先の良いスタートを切る等、引き続き好調に推移いたしました。

また紙出版においては、コミックスで20タイトル(昨年比2.5倍)の重版を積み上げ、定期誌においても女性向けファッション・クルマジャンルを中心に堅調を維持しております。

注力分野として新たに立ち上げたライトノベル事業においては編集・制作活動を開始、グループとしてジャンルの強化をしており、まんが王国向けコミカライズ作品の制作も順調に進捗しました。

これらの結果、当セグメントの売上高は3,291,830千円、営業利益は767,075千円となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 財政状態の状況

#### (資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は19,675,711千円となり、前連結会計年度末に比べ65,399千円減少しました。

流動資産は8,051,991千円となり、前連結会計年度末と比べ198,718千円増加しました。これは主に、受取手形及び売掛金が123,369千円減少した一方で、現金及び預金が336,465千円増加したことによるものです。

固定資産は11,623,719千円となり、前連結会計年度末と比べ264,118千円減少しました。これは主に、無形固定資産が279,145千円減少したことによるものです。

#### (負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は14,159,526千円となり、前連結会計年度末に比べ356,872千円減少しました。

流動負債は8,312,351千円となり、前連結会計年度末に比べ79,374千円増加しました。これは主に、支払手形及び買掛金が72,935千円、未払法人税等が93,914千円、返金負債が122,512千円減少した一方で、未払金が101,033千円、未払費用が267,652千円増加したことによるものです。

固定負債は5,847,175千円となり、前連結会計年度末と比べ436,247千円減少しました。これは主に、長期借入金470,000千円減少したことによるものです。

#### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は5,516,184千円となり、前連結会計年度末に比べ291,472千円増加しました。これは主に、利益剰余金が272,513千円増加したことによるものです。

この結果、自己資本比率は、28.0%となりました。

## ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)の残高は3,566,801千円となり、前事業年度末に比べ336,465千円増加しました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動においては、税金等調整前四半期純利益634,270千円から、主な加算項目として、減価償却費165,064千円、のれん償却額334,885千円、売上債権の減少額123,369千円、未払費用の増加額266,370千円等がありました。これに対して主な減算項目として、返金負債の減少額122,512千円、法人税等の支払額399,142千円等がありました。

この結果、獲得した資金は1,048,699千円となりました。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動においては、主な資金減少要因として、無形固定資産の取得による支出241,975千円等がありました。

この結果、使用した資金は252,271千円となりました。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動においては、主な資金減少要因として、長期借入金の返済による支出470,000千円等がありました。

この結果、使用した資金は459,963千円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年5月14日の「2021年12月期第1四半期決算短信」で公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

プラットフォームセグメントにおいては、主力である「まんが王国」において、引き続き積極的な広告宣伝活動による売上高向上を目指します。さらに、「まんが王国」の注力ポイントであるお徳感の訴求等のサービス強化と、オリジナル作品の創出や独占・先行配信作品の獲得等のコンテンツ強化によって中長期的な成長へと繋げます。

コンテンツセグメントにおいては、女性向け漫画ジャンルを中心に作品数を確保しつつヒット作の創出に取り組むとともに、各電子書店との連携を強化し成長分野であるデジタルコンテンツの売上成長を目指します。また、注力分野であるライトノベル事業及びグループ間シナジーの創出にも積極的に取り組んでまいります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,230,336	3,566,801
受取手形及び売掛金	4,433,602	4,310,233
商品及び製品	76,524	63,028
貯蔵品	1,265	1,131
前渡金	10,438	430
前払費用	36,506	25,749
未収入金	51,805	47,063
その他	42,314	65,364
貸倒引当金	△29,522	△27,812
流動資産合計	7,853,272	8,051,991
固定資産		
有形固定資産		
建物	14,662	14,662
建物附属設備	48,838	62,247
工具、器具及び備品	185,683	194,405
減価償却累計額	△188,816	△197,664
減損損失累計額	△9,426	△9,426
有形固定資産合計	50,941	64,224
無形固定資産		
のれん	10,882,880	10,547,995
ソフトウェア	262,490	242,783
コンテンツ資産	296,127	537,441
ソフトウェア仮勘定	3,742	—
コンテンツ資産仮勘定	164,586	2,487
その他	1,382	1,357
無形固定資産合計	11,611,210	11,332,065
投資その他の資産		
敷金及び保証金	148,955	148,449
繰延税金資産	58,170	58,170
その他	18,560	20,810
投資その他の資産合計	225,686	227,430
固定資産合計	11,887,838	11,623,719
資産合計	19,741,111	19,675,711

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,943,123	2,870,188
短期借入金	2,000,000	2,000,000
1年内返済予定の長期借入金	940,000	940,000
未払金	347,247	448,280
未払費用	163,321	430,973
未払法人税等	442,286	348,372
未払消費税等	104,818	75,755
繰延収益	631,739	676,475
返金負債	596,896	474,384
預り金	28,240	28,192
その他	35,300	19,727
流動負債合計	8,232,976	8,312,351
固定負債		
長期借入金	6,245,000	5,775,000
繰延税金負債	38,423	72,175
固定負債合計	6,283,423	5,847,175
負債合計	14,516,399	14,159,526
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,875,831	1,882,704
資本剰余金	1,875,331	1,882,204
利益剰余金	1,841,717	2,114,230
自己株式	△368,169	△362,955
株主資本合計	5,224,711	5,516,184
純資産合計	5,224,711	5,516,184
負債純資産合計	19,741,111	19,675,711



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自2021年1月1日 至2021年6月30日)
売上高	9,249,577
売上原価	5,909,233
売上総利益	3,340,344
販売費及び一般管理費	2,616,533
営業利益	723,810
営業外収益	
受取利息	14
受取配当金	87
受取返戻金	1,672
助成金収入	150
還付金収入	1,002
その他	335
営業外収益合計	3,261
営業外費用	
支払利息	71,216
融資手数料	3,699
その他	1,060
営業外費用合計	75,976
経常利益	651,094
特別利益	
固定資産売却益	13,500
特別利益合計	13,500
特別損失	
減損損失	30,324
特別損失合計	30,324
税金等調整前四半期純利益	634,270
法人税、住民税及び事業税	327,726
法人税等調整額	33,752
法人税等合計	361,479
四半期純利益	272,791
親会社株主に帰属する四半期純利益	272,791

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
四半期純利益	272,791
四半期包括利益	272,791
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	272,791

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)	
当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純利益	634,270
減価償却費	165,064
減損損失	30,324
のれん償却額	334,885
支払利息	71,216
融資手数料	3,699
売上債権の増減額 (△は増加)	123,369
立替金の増減額 (△は増加)	△44,525
仕入債務の増減額 (△は減少)	△72,935
未払金の増減額 (△は減少)	88,893
未払費用の増減額 (△は減少)	266,370
繰延収益の増減額 (△は減少)	44,736
返金負債の増減額 (△は減少)	△122,512
未払又は未収消費税等の増減額	16,009
その他	△19,555
小計	1,519,310
利息及び配当金の受取額	101
利息の支払額	△71,570
法人税等の支払額	△399,142
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,048,699
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	△10,296
無形固定資産の取得による支出	△241,975
投資活動によるキャッシュ・フロー	△252,271
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
長期借入金の返済による支出	△470,000
融資手数料の支払による支出	△3,699
株式の発行による収入	13,745
自己株式の取得による支出	△9
財務活動によるキャッシュ・フロー	△459,963
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	336,465
現金及び現金同等物の期首残高	3,230,336
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,566,801

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)

(株主資本の金額の著しい変動)

当社は、2021年3月25日開催の取締役会決議に基づき、2021年4月23日付で、当社の取締役に対する譲渡制限付株式報酬として自己株式3,500株の処分を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において利益剰余金が277千円、自己株式が5,222千円減少し、当第2四半期連結会計期間末において利益剰余金が2,114,230千円、自己株式が362,955千円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結財務 諸表計上額 (注) 2
	プラットフォーム セグメント	コンテンツ セグメント	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,042,222	3,207,354	9,249,577	—	9,249,577
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	84,475	84,475	△84,475	—
計	6,042,222	3,291,830	9,334,052	△84,475	9,249,577
セグメント利益又は損失 (△)	△42,855	767,075	724,219	△409	723,810

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△409千円は、全社費用及びセグメント間取引相殺消去額であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「プラットフォーム」セグメントにおいて、一部のコミックに関するサービス及び一部のゲームに関するサービスに係る無形固定資産について減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において30,324千円であります。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大に伴う会計上の見積り

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定について重要な変更はありません。